

共同助成(三重県遊技業協同組合)

## 「ギャンブル、ゲーム関連問題を抱える人たちを支援する三重ダルクスタッフのスキルアップのための研修」事業

### 有効的で持続可能な依存からの回復支援を 実践するために先進事例を学ぶ取り組み

依存からの回復を支援するコミュニティとして三重県で20年以上の経験を持つ団体が、ギャンブル、ゲーム関連問題を抱える人たちを支援するスタッフのスキルアップのための研修を実施するとともに、先進的な取り組みを紹介するオンライン講座を開催した。オンライン講座視聴者からは、満足の声や継続を望む声が届けられている。



スタッフが研修に訪れた「リカバリー」と「むら ワークスホーム」



#### 有効的な依存症支援を続けるために 実績のある個人や団体を訪問して研修

1999年に三重県津市で設立されたNPO法人「三重ダルク」は、アルコール・薬物・ギャンブル・ゲーム・盗癖などのアディクション(依存症)問題を抱える人たちのためのサポート・コミュニティを運営する団体である。専門資格を持ったスタッフが多数在籍しており、理論的根拠に基づいて、アディクションを「手放す」から、新しい自分を「見つける」まで、一人ひとりに合ったサポートを提供している。また、当事者・家族への直接支援に加え、関係各機関への講師派遣、ネットワーク構築にも積極的に取り組んでいる。2020年度、2021年度とPOSCの助成を受け、三重県志摩市に新たな拠点を確保し、依存の問題を抱える人たちの受け皿の整備・拡充に取り組んできた。

2020年の年明けに始まった新型コロナの蔓延によるスト

レスフルな生活は、依存問題を抱える人たちにも影響を与えてきた。三重県においても、新型コロナ以前に比べ、ギャンブルやゲーム関連の相談が増えている現状があった。そうした状況への対処の一環として、これまでの取り組みをさらにもう一歩進め、有効かつ持続可能なものとするために、2022年度もPOSCの助成を活用し、ギャンブルやゲーム関連の依存に対して優れた先進的取り組みを行なっている個人や団体を訪問したり、当法人の施設に招いて講義をしてもらうなど、支援スタッフの知識や技能向上のための研修を行うことにした。さらに、訪問先以外の先進的事例・実践を行なっている専門家を招聘し、講座を開講した。また、それらの成果を当法人だけのものにするのではなく、依存問題に取り組んでいる全国の個人・団体へと還元するため、オンライン配信を行うこととした。

#### 依存問題を抱える当事者一人ひとりを 理解するための先進的取り組みを学ぶ

訪問研修では、沖縄県の「むら ワークスホーム」、長崎県の「ちゅーりっぷ会 長崎ダルク」、北海道の「北海道ダルク」と「リカバリー」を訪問先として選定した。スタッフは数名ずつ各団体を訪問し、研修を行ったが、これらの団体が選ばれた理由としては、10~20年以上の活動経験があり、豊富な支援実績があること、かつ当事者の主体性を重んじつつ、個人の特性に合わせた回復支援プログラムを提供していることにあった。

昨今の依存症対策(治療や支援)においては、依存症をひとくりに捉え、画一的な支援を実施する機関・団体も少なくない。依存症が社会に広く認知され、その治療・支援のネットワークが広まることは喜ばしいことではあるが、半面、依存症という概念が独り歩きして、当事者一人ひとりを理解するという本来の視点が忘れられがちである。そのため、より社会の価値観を反映した就労などが回復像として求められてしまうが、そうした支援だけでは、一部の

当事者をかえって追い込みかねない。今回、訪問先に選定した団体は、そうした弊害を考慮しながら、先進的な依存症支援に取り組んでいる団体である。

訪問できなかった施設に関しては、その団体代表者に三重県志摩市に招いて講義を実施(2022年11月21日)したほか、さらに依存問題に関する先進的事例・実践を行っている専門家を招聘し、講座を開講した(同7月30日、8月6日、9月3日・17日、10月2日・29日、11月20日、12月4日)。こうした講座は全国にオンライン配信を行ったが、オンライン講座の実施にあたっては、チラシのデザインや講座の撮影にアディクション回復者である専門家に依頼して、存分に腕を振るってもらった。

#### 三重県遊技業協同組合より

依存問題の解決にあたっては様々な知見が必要となります。そうした取り組みを地元で行っている団体を応援していきたいと思えます。



依存問題に関する専門家を招聘したオンライン講座を告知するチラシ



助成団体:特定非営利活動法人 三重ダルク

<https://miedarc.com/>



#### 依存症者一人ひとりのリカバリーに焦点を当てた回復支援を目指して

アディクションの人たちは、単に依存対象を手放すことだけでなく、その背景にある本質的な課題とも向き合いながら、地域社会と関わり、自分自身への尊敬を深めていかねばなりません。今回、私たちはこの助成金でそうした環境・機会を創り出させていただきました。これは今年度だけで終わるものではなく、今後発展していくものです。今後とも私たちの活動を見守っていただきますよう、心よりお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 三重ダルク  
常務理事 市川 岳仁さん